

令和7年度 石和南小学校の学校教育方針

1 学校教育目標

「心豊かで、たくましい子どもの育成」

～学校が、子どもにとって「学びたい学校」、
保護者にとっては「学ばせたい学校」、
地域にとっては「なくてはならない学校」、
教職員にとっては「働き甲斐のある学校」であるために～

ア) めざす児童像

- ・命を大切にし、健康で思いやりのある子ども
- ・仲間とともに、進んで学び、活気のある子ども
- ・きまりを守り、最後までやりぬく子ども
- ・仲間と協力し、自ら行動する子ども

イ) めざす学校像

- ・明るく楽しく学びにむかう学校
- ・心が落ち着き、どの子にも居場所がある学校
- ・学びの基盤である家庭（保護者）・地域と連携し、開かれた信頼される学校
- ・言語活動や体験活動を通して子どもが主体的・自律的に活動し、健やかな学びを保障する学校

ウ) めざす教師像

学校における最優先事項は、子どもの命と安全を確保することである。

その考えに立ち

- ・子どもの特性などを考慮し、一人一人の子どもに生きる力を育む教師
- ・子どもが分かる授業を創造するため、自らの指導力・教師力を向上しようとする教師
- ・保護者や地域の願いを受けて、子どもの幸せを導く教師

2 学校経営目標

めざす子ども像

「あいさつと笑顔があふれる心温かな学校（学級）で自ら学びにむかう子ども」

子どもチャレンジ目標

- ・誰に対しても、心の通う丁寧なあいさつができるようになろう。
- ・「ありがとう」と言える人、「ありがとう」と言ってもらえる人になろう。
- ・話し手の説明が、理解できる聴き方ができるようになろう。
(聞き手に分かりやすく説明できるようになろう。)
- ・相手を思いやる丁寧な言葉遣いができるようになろう。
- ・「みなみルール」を身に付け、自ら集中して学べるようになろう。
- ・「下駄箱の靴の整頓」「無言清掃」ができるようになろう。
- ・「みなみルール」を守って生活できるようになろう。

教師チャレンジ目標

子どもたちの長所を褒めて認める。短所を改善させるよりも長所を伸ばす。

- ・子どもの特性などを考慮し、一人一人の子どもに生きる力を育む教師になろう。
- ・子どもが分かる授業を創造するため、自ら学び続ける教師になろう
- ・本校の子どものために、同じ方向を向いて「チームみなみ」で取り組んでいこう。

3 学校経営推進の具体的な実践

(1) 「確かな学力」の育成と学びを深める教育

◇学校全校で取り組む学習規律の確立

- ・「みなみルール」の定着
- ・「授業の主体者は子ども」を意識し、「個別最適化および協働的な学び」を両立した授業展開

◇子ども実態に即した校内研究の推進

- ・課題の明確化（めあてとゴール）
- ・学びの連続性（振り返りをしながら次時の学びにつなげる）
- ・ICTを効果的に利活用し、考えを共有しながら自分の考えを広げる・深める
- ・学級力向上プロジェクトを取り入れた学級づくり
- ・ともに考え支え合う学級、学年、全校集団をめざした活動
- ・つながりを深める環境づくり（家庭学習の推進、幼保中高等とつながる実践）

◇教師の授業力や学級経営力を生かした教育実践

- ・全国学力学習状況調査結果を基に横断的、縦断的な教育活動の実践
- ・一人一実践による授業提供

◇教科担任制の導入やティームティーチング指導

- ・少人数指導やTTによる授業実践（非常勤講師・市担講師等の活用）

◇朝学習・学びの放課後教室・市学力向上委員会の取組等の実施（基礎学力向上への取組）

- ・一人一台端末を使った情報モラル・情報スキル学習の推進
- ・算数、国語の基礎的内容の定着

◇読書活動の推進

- ・「読書の時間」を積極的に活用 保護者やボランティア、教師による読み聞かせ

◇福祉教育の推進

- ・児童会活動（書き損じ葉書、救援米等の収集）やクラブ活動（高齢者とのゲートボール等）による実践
- ・4年生の福祉教育（福祉講話、福祉体験等）
- ・6年生の一日民生委員活動

◇伝統や文化等に関する教育の推進

- ・御陣屋太鼓の伝統を中心にふるさとに誇りをもち、地域や世界で活躍できる人材の育成
- ・「ふるさと山梨」の活用や地域との連携等による郷土学習の推進

◇情報教育の推進

- ・ICTの有効活用を進めながら「主体的・対話的で深い学び」の実現
- ・各教科等の学習内容と関連付けながら、適切なプログラミング教育の実施

◇キャリア教育の推進

- ・全体計画及び年間指導計画に基づくキャリア教育の実践的な計画
- ・自己実現に向け、特に「職業観」「勤労観」「自己理解」「生き方」についての指導

◇家庭と連携した家庭学習の充実

- ・「家庭学習の手引き」，「生活チェックカード」の活用
 - ・石和地区全体で取り組む「ノーメディアタイム・チャレンジ」への取り組み（年5回）
- ◇スタートカリキュラムの推進
- ・幼児期の生活から小学校生活への円滑な接続を目指すため，接続を意識したスタートカリキュラムの実施

（2）しなやかな心と丈夫な体をつくる教育

- ◇学級づくり案（学級経営案）に基づく認め合う学級づくり
- ・一人一人が認め合える学級づくり（子ども理解，学級力向上プロジェクト，学級づくり案）
 - ・RPDCAのサイクルによる学級集団づくり
- ◇道徳教育の一層の充実
- ・道徳の時間の確保と授業の工夫改善
（授業のふり返り[指導と評価の一体化]，子どもの活動の評価）
 - ・道徳教育全体計画をふまえた心に響く道徳教育の推進
 - ・全教育活動（日常生活，校外学習，登下校等）で推進する道徳教育
- ◇心に寄り添う生徒指導
- ・生徒指導年間計画と月別重点目標の設定
 - ・校内生徒指導委員会による指導体制づくり
 - ・児童理解と情報交換（教師間の共有化，児童の良いところ，頑張ったことを中心に）
 - ・関係機関との連携（特別支援学校，ふえふき教育相談室，子育て支援課，児童相談所等）
- ◇学校不適応，不登校，いじめ，ヤングケアラーへの対応
- ・スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー及び笛吹市ことばと発達のサポートルーム等の講師による教育相談，研修会の実施（SC，SSW活用事業，特別支援学校との連携）
 - ・児童観察，教師へのアドバイス・研修，児童・教師・保護者に対しての相談
 - ・いじめの早期発見と早期対応のための組織的な取組（いじめ実態調査の実施（年3回）他）
 - ・不登校児童の保護者との連携
 - ・ふえふき教育相談室，教育支援センターステラとの連携
 - ・ストレス等への対処方法を身に付けるため，SOSの出し方に関する教育の実施
 - ・スマホ等，ネットでのトラブルを予防するため講演会を実施（ほっとネットセミナー）
- ◇「あいさつ・聞き方・言葉遣い」の推進
- ・笛吹市の取組でもある「あいさつ・聞き方・言葉遣い」への学級・学年・児童会での取組

（3）特別支援教育の推進

- ◇専門性の向上
- ・特別支援教育に関する理解の促進と専門性の向上のために，本校の子どもの実態に応じた研修の実施
- ◇教育内容の充実
- ・多様性を認め合える集団づくりのための交流及び共同学習等，障害(者)理解教育の実施
 - ・個別の教育支援計画を作成し，支援内容の検討及び評価の実施
 - ・特別支援コーディネーターを中心とした特別支援校内委員会を適切に実施
 - ・教育支援センター

（4）豊かな成長を支える教育環境の充実

- ◇開かれた学校づくり
- ・授業参観や学校開放日の実施
 - ・学校評議員会の開催及び学校関係者評価委員会の開催
 - ・学校評価の実施と学校教育活動の改善

- ・ 保護者と連携したPTA活動の充実
 - ・ 児童民生委員の学校訪問と懇談会の開催
 - ・ 出前講座など外部講師を招聘し、専門性や体験を重視した学習会の実施
- ◇幼保・小学校・中学校・笛吹高校との連携
- ・ 地域課題研究会議（ブロック研）による中学校，町内小学校との交流授業参観
 - ・ 幼稚園，保育園等との情報交換や保育参観，園児との交流活動
 - ・ 石和中学生による陸上指導や御陣屋太鼓クラブの指導
(農林高校 望月先生，笛吹高校すいれき太鼓部)
- ◇人事評価制度の取組
- ・ 「教員育成指針」に則った教職員一人一人の資質向上を図る
 - ・ 若手教員を中心とした学び続ける教師の育成（OJT）
- ◇安全，安心な学校づくり
- ・ 交通安全教室の開催（1年・入学時，4年生・自転車の乗り方を中心に実施）
 - ・ 集団登下校の指導（登校班指導等）
 - ・ 避難訓練（火災，地震，水害等）の実施（年間5回程）
 - ・ 児童引き渡し訓練と通学路点検の実施
 - ・ 施設設備の安全点検（隔月1回）
 - ・ スクールガードリーダーや児童見守りボランティア等との連携
 - ・ 笛吹警察署との連携（学警連）
 - ・ 緊急時における迅速な保護者等への連絡および保護者からの報告の確立
(Teams および安全安心メールの活用)